

第7期第3回府中市美術館運営協議会報告書

- 1 日 時 平成25年11月17日(日) 午後3時～5時45分
- 2 場 所 府中市美術館会議室
- 3 出席者 委員(順不同・敬称略)
中林・藤原・大杉・中村・谷矢・丸山・薩摩・松浦・茨木・津田
(欠席 堀江・高江)
事務局
井出館長・山村副館長・菊池管理係長・志賀学芸係長
武居教育普及担当主査・会津主任

4 内 容

会長挨拶

府中市美術館館長挨拶

美術館の事業について

- ・平成25年度以降の展覧会について
- ・教育普及事業について
- ・施設管理、市民ギャラリーについて

5 議 題

美術館と地域社会、そしてマネジメントについて

資料についての質疑応答、意見等

□は各委員の発言、■は事務局

- アンケートの形式は、聞き取りですか。
- 聞き取りではなくアンケートBOXを用意しました。
- 何日間やったのですか。
- 10/11～10/24の12日間です。
- アンケートは一般と内部の方にとったということですが、メンバーとかボランティアにもとっていただくとよかったと思う。
- 聞き取りのアンケートでないと、良い意見がもらえないが、満足しているという意見が多い
- 市外の方が多いですね。
- 今までの任意のアンケートでは、料金が安い時の方が、市内が多い傾向にあります。
- アンケートをとって、問題点が出た時、具体的に改善はされていますか。
- 常にアンケート箱をおいていますので、その集計をコピーして常に見ており、改善が可能なら改善するようにしているので、今回のアンケートについても同様です。
- メンバーシップについてですが、メンバーを大事にしたいので、メンバー対象の鑑賞ツアーのようなものをやってもらえるといい。

- 年2回やっています。3月と10月に館長サロンという形で、ボランティアの説明会とメンバーシップサロンを兼ねて館長の特別講座をやっています。以前はメンバー限定でしたが、330名中10名も集まらなかったのが今は、ボランティアとメンバーを対象にスライドレクチャー等を行っています。
- メンバーシップ改革はいつからですか。
- 平成26年度からです。
- 楽しめるメンバーの集まりを企画してもらえたらいいのではないかと。ファンクラブのようなものだと楽しいのではないかと。
- 今、メンバーシップは330名となっていますが、継続性はあるのですか。
- 平成12年の開館当初は熱心に勧誘したこともあり、600名位いたのですが、序々に減って300名以下に落ち込んだので、今また勧誘して少しずつ増えています。
- 特典が自動的に与えられるというだけで、会としてなんらかの会合があるという訳ではないので、お互い集団としての意識がないのかも知れない。館長講演会のように特別な場が簡単にできるといいかも知れない。
- 図録は選べるのですか。
- 売り切れる図録もあれば、売れない図録もあるので、選ぶことはできません。
- できるだけ、希望にそいたいと思っていますが、欲しい図録がない場合は、ご理解いただくこととなります。
- 図録は欲しくないものをもらっても困る。むしろ毎回ごとの割引券をつけた方がいい。
- 図録よりポストカードの方が安いし、楽しい。
- 図録サービスは、他の美術館でもやっているようなので、うちでも考えたのですが、実際難しいようなので、皆さんの意見を反映して検討します。

答申案について

(マネジメント)

- 今、どこの美術館も効率化を求められているけれども、美術館は他の文化市施設や体育施設とは違って特殊なミッションを持っている。そういったことを考慮して、内容や企画展を充実させる等運営の工夫をしなくてはいけない、そのためにマーケティングは必要である。
- 国立の美術館のように大きな館はお金がかかる。収入の面でも規模が大きいと財政的に厳しくなる。適正な大きさと収入と支出をはかることが好ましい。そういった面で市立美術館は比較的容易にできる。当館の場合収入の面では、全体を10とした場合3~4だが、その枠を超えられない。そこをどうしていくか、どう動かしていくかが問題になる。低いところでの安定ではなく、レベルアップをめざしていきたい。
- 市立美術館は、小回りがきくので、地域と連携して共生していくのに丁度いい規模で運営は比較的安定している。市立美術館のメリットは活かすべき。

(マーケティングの必要性)

- 市民の利用率は現状でよいが、市立美術館という点から市民の利用を重視しながら子育て中の人、働いている人、高齢の人等それぞれの世代、それぞれの生活の状況に応じた企画（子供と一緒に参加できるイベント、高齢者を対象にした講座等）をし、少しでも多く来館してもらえようような施策を考えることが必要。
- 一般的に美術館は調査をするべきである。現在やっているのでも、それでいいと思うが、どれくらい行うかが課題になる。

(アンケートなど)

- アンケート BOX はいままでどおり置いておき、年間を通じて行うアンケートと、例えば年1回やり方を工夫して、聞き取り等で行うスポット的なものを組み合わせて行う。
随時、委託業者（看士・清掃・ショップ・カフェ等）やボランティア、メンバーシップを対象に綿密なアンケートを行う。
- 以前は予算があって、委託でアンケートをとったこともあったが、今は予算がないのでボランティアにお願いできたらと思っている。
- お金がかかるのであれば、ボランティアを活用するとよい。
アンケートの結果について、館内の会議で反映させていく必要がある。

(広報、パブリッシング)

- ここに書いてあることはもったもだと思う。
作品のアーカイブ化はされていないのか？
- 所蔵品目録は作っているが、デジタルアーカイブがないということで、HPから検索するシステムはない。
- やった方が理想的だが、全部というのは難しいので、代表的なもの何点かでも効果はある。
所蔵品の情報は常設展示しかないもので、展示できるものは限られてしまう。
広報のために主要作品だけでもアーカイブ化するのもよい。
- パンフレットの文字が小さく見にくいので、活字を大きくして見やすくなるように工夫を。
- 図書館に5万点の蔵書があるが、現状外部からアクセスができない。
貴重な資料等があると思うので、単独でも府中市の図書オンラインシステムに入れてもいいので、外部からアクセスできるような体制を整えてほしい。
- 作品の検索システムと同じだと思うので、やるなら一緒がいい。
- どちらかというと、作品が先だと思う。
- 美術館の図書のなかには、古い雑誌が多くあり、その他大型図録がほとんどを占めていて、中には、10万円以上するものや、入手困難ものもあります。

府中市の図書システムに入れると、どこの文化センターからオーダーがあると翌日にとどけるというサービスになっているため、美術館の図書は不向き。

1 ページ切り取られても研究資料としての価値を損ねる。

来館者が見たいという要望に応えられなくもなる。

美術資料については、来館した方にサービスしたいと考える。

研究者に現物を見せて行くサービスもあるかと思うので、一般図書としてオンラインシステム化することだけでなく、府中市美術館らしいサービスを考えていきたい。

- 展覧会用に購入した図書についても、研究資料としてだけでなく、一般公開もしています。

専門書ですが、特徴をもっているなので、そういった特徴を紹介することが大切だと考える。

(場所、駅からの案内、公園、環境)

- 美術館の近くには芸術施設があるので、周辺施設と連携して「芸術まるごとツアー」といったものを考えてはどうか。

- 以前2回「美と食の集い」というのを行った。去年は、芸術劇場との日程が合わなくてできなかったが、試みとしては続けたい。

- 屋外美術展をやってみるのもよいという 具体的な提案が出ていますが…

- 無料観覧日のようにタイアップが進んできています。

例えば、子供たちのワークショップを「ドラゴンチェア」ということで大がかりにタイアップしているし、ボランティアが都の野外彫刻について解説してまわるということを定期的なイベントの中で行い美術館とのタイアップが少しずつ進んでいます。

- 答申としては、今やっている〇〇はよかったというのも必要だと思うので、前述はそういうことに入るかと思う。

- 公園の中にはいろいろな施設があるので、独立した美術館としてではなくて、公園の中の美術館として、殻に閉じこもらないで広げていけば成功するのではないか。

そういった努力をしてほしい。

すでにやっていることを継続してやっていくことが大切。

(企画展覧会のクオリティ)

- 報告書にいれなくてもよいのではないか。

- 学芸員の人数が少ないので、企画自体がマンネリ化になりやすい傾向があるのではないか？

企画する際外部の意見を取り入れているか？

- 外部の意見は広く聞いている。館長としては、積極的に市民や全国の美術館関係者の声を聞いている。

- 後にでてくる(学芸員と職員能力の向上)にもかかわってくるが、特定の人を企画に参加させるのではなく、学芸員がいろいろなところと連携して、定期的に情報収集し

ていけばいいことだと思う。

- 「かわいい江戸絵画」は、タイトルだけではなく「かわいい」ということに問題意識をもって企画されている。
つまり、専門性ということ。それを一般化していくことを同時に考えることが求められる。
何をやるかではなく、どうやるかが重要である。
つまり、どういう形でアピールしていくかである。

(教育普及事業)

- 専門的に学びたいというニーズがあるので、カルチャーセンター的な、単発ではなく（例：毎週○曜日 全8回）テーマを決めて継続的に学べる専門的な講座を企画して欲しい。
- 今、そういったものはないのですか？
- 開館当初、美術館講座というのを行っていた。学芸員が講師をして、テーマを決めて5～7回と連続講座を7～8年続けたが、学芸員が多忙でできなくなり現在はやっていません。
- ニーズはあったのか？
- 連続することで参加する人はいた。
現在は、教育普及事業の方で、理論や鑑賞も取り上げていきたいということで、昨年からは試験的にトークプログラムを毎週土曜日に、ワークショップを取り混ぜながら行っている。
- 学芸員が忙しいのなら、外部講師でもよいので、それを復活させて欲しい。
- 有料でもよいと思う。

(学芸員と職員能力の向上)

- 学芸員の資質の向上は大切。きちんと勉強させるべきであり、そのための機会と時間は確保すること。

(美術品収集事業)

- 情報不足となってしまうので、少額でも復活するべき。
- 美術館の大事な仕事でもあるので、3年も予算がつかないのはおかしい。
- 要望は言い続けることが大切。

(ミュージアムショップとカフェの改善)

- ショップとカフェは改善しなくてはいけないものですか？
- 答申というほどのものではないが、やったらどうですか ということくらいでいいのではないか。
- 今回はマネジメント、運営の改善ということでお願いしているので、これは載せたい。

- 企画展に合わせたメニューを考える等して、美術館全体で盛り上げる。
- カフェの業者は競争入札ですか？
- 開館時に10社でやったが全社辞退されて、無理にお願いしたこともあり、また初期は赤字だったので、替えるのがなかなか難しかった。
- 食事をするところは大事にしておいた方がよいので、「美味しくない」という意見があるのなら、試食会をしたり、業者についても公募する等して改善をはかる。
- 受付の接客について、座ったままだが、お客様と同じ目線で対応する方が親切。

(地域社会との連携)

- バス、商店街、導線の問題については言い続けていく必要がある。
- 学校連携はシステム化が進んでいるので、さらにやるべきことは何かをこの答申に入れることがあれば、先生方に伺いたい。
- 学校との連携は、順調にいつているので、子供だけではなく親につなげていくこともひとつの方法かも知れない。
- 障害者についてはどうなっていますか？
- 障害者には、優遇しているので、結構利用しています。
問合せに対して親切に施設利用の案内をし、利用にあたっては、雨宿り、トイレ、食事休憩など便宜を図っているので利用者は増えています。

(市民ギャラリー)

- 効率を考えて展覧会の閉館日はギャラリーも閉館するのが良いと思う。

(ボランティア)

- 鑑賞ボランティアを育成して、学芸員の代わりに美術館を案内してもらおう、というのが実現できるとよいが、なかなか難しい。
- ボランティアの現状は？
- 登録は120人位。ワークショップノボランティアが多く、文化まつり、公開制作、ギャラリーの催し物の補助等に関わっています。
鑑賞ボランティアは過去にトライしているが、マッチングが上手くいかなくて難しい。
解説を受けたい人としたいと思う人が合わない。
解説をするための教養、説明力、エンターテインメント性が必要。
展覧会ごとに展示を替えるので、教養も情報も必要になってくるのだが、簡単には身につかない。お客はプロを求めてくる。
- やるとしたら、コレクション展 牛島とかの小さなところで少数でやればよいのではないか。
- ボランティアは美術館にとって必要なので、少数でもレベルの高いボランティアの育成に努め、充実を図る。
むしろ、ボランティアを組織化する美術館側からの体制づくりをしなくてはいけない。

(メンバーシップの改善)

資料4で説明及び質疑応答

(美術館運営協議会の在り方)

- 年2回は少ない。できれば4回くらいにしてはどうか。
- 予算的に4回が難しいようであれば、私的に会長が声をかけて委員同士情報交換をしてはどうか。
- 検討します。

(年間開館日・開館時間等)

- 都内でも開館時間が短いということについては、市民にきちんとした説明ができるようにする。
- 月曜の休館にとらわれず開館する。また展覧会によっては、サマータイム等時間を延長するなど、柔軟性をもたせるための努力をする。

(その他)

- 外部資金の調達について(財政力アップのため)、共催でお金を出してもらうことについては、ちらし等で企業の名前を出すとすると、それは宣伝になってしまうので、公立美術館としては難しい。
- 寄付講座を開催してはどうか。
- 中長期計画の策定(組織力アップのため)を内部で策定するために、各業務の評価をしてその実績を活用しながら運営していく
- 内部的なシステムを作る。
- 内部努力はするべき。
- 「やって欲しい」という内容のものが多く出されたが、評価すべきところは評価してバランスを考えて答申したいと思う。